



▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様

第 37 号

2004年9月

岡山県古代吉備文化財センター

## 開所20周年を迎えて

所長 正岡 睦夫



文化財センターは昭和59年11月に開所しましたので、今年、20周年を迎えることになりました。岡山県は古くから文化の栄えたところで、貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。そのため、大規模開発への対応と埋蔵文化財の保護を図る独立した機関として設置されました。

本センターでは、毎年10か所余の発掘調査を実施しています。重要な発見があった場合は、現地説明会を開催しますが、市町村教育委員会の協力を得て、調査成果の報告会も毎年実施しています。今年からは県内に分布している2万か所の遺跡に関する情報公開をインターネットで開始しました。また、現在収蔵している遺物や写真などの貸し出しを行っています。市町村で活用できるように譲与も進めています。さらに、今年度から展示室を休日にも開館し、考古学教室を開設するなど県民の生涯学習のお役に立てるような活動にも取り組んでいます。今後も各位の御指導のほど、よろしくお願いいたします。



最近の発掘調査から

平成16年度の発掘調査は、図に示した14か所で行う予定です。

本号では、その中の6遺跡の最新情報を紹介します。(青字が掲載遺跡)



- ① 総社市南満手・窪木遺跡
- ② 岡山市南方遺跡(裁判所)
- ③ 岡山市南方遺跡(NPO会館)
- ④ 岡山市仏生田遺跡
- ⑤ 美作町稲穂遺跡
- ⑥ 奥津町夏栗遺跡
- ⑦ 岡山市中島城跡ほか
- ⑧ 勝北町姥ヶ谷遺跡
- ⑨ 岡山市百間川兼基遺跡ほか
- ⑩ 大原町中町B遺跡ほか
- ⑪ 岡山市鹿田遺跡
- ⑫ 総社市井手天原遺跡
- ⑬ 勝央町釜屋遺跡ほか
- ⑭ 佐伯町田尻散布地ほか

**砂** に埋まったムラ — 岡山市百間川兼基遺跡 —

旭川放水路(百間川)改修に伴い、本年度は百間川兼基遺跡の五反田浄化施設調査区と百間川今谷遺跡の低水路調査区の調査を行っており、



洪水砂で埋まった住居(東に今谷橋・芥子山)

8月末現在、前者の調査を行っています。

この調査区は、これまでの調査でもにも弥生時代中期後葉の住居域の一角に当たることや、弥生時代後期末(約1,800年前)の洪水砂に覆われた水田や水路などの存在が予想されていました。

調査を進めると、前述の弥生時代後期末の洪水砂がほぼ調査区全体を覆っていることがわかりました。それを取り除くと、その下から弥生時代後期末のムラの一部が姿を現したのです。見つかった遺構は、竪穴住居2軒、井戸2基、畦で区切られた水田区画が2面とそこから南へ延びる水路1条、そして水田と水路の間を仕切る樋門1基などです。どの遺構も洪水砂で埋まっており、この地域を洪水が襲う直前の、ムラの景観の復元が可能です。

さて、これらのうちの一軒の竪穴住居では深さ50cmのうち上部40cmまで、もう1軒も上部20cmほどまでしか砂は入っていませんでした。したがって、正確には洪水がこの地域を襲ったときには水田と水路以外は廃絶していたようです。左の写真の竪穴住居では掘り方の外周部分に周提(土手)の一部が残存していました。こ



火事で焼け落ちた住居

の住居は径約5mの4本柱で長細い中央穴をもち、住居内から外へと通じる排水溝が水路までの12mの間掘削されていました。もう1軒の径約4mの住居は火事で焼け落ちたようで、床面には炭化した垂木や横木などの建築部材の他、屋根を葺いた茅も見つかっています。

また、これらの住居に住んでいた人々が使っていたと思われる井戸には、数多くの土器が投



井戸から見つかった土器群

げ入れられ、木製品の一部も見つかっています。

このように、百間川兼基遺跡では、洪水砂に覆われたことにより、弥生時代後期末の人々の生活の様子が具体的に復元できます。また、この後期の遺構群の下層には、弥生時代中期の堅穴住居などの遺構群が広がっていることがわかっています。現在は、より多くの成果を期待して下層の調査を進めています。（和田 剛）

## 平

## 安時代の土器溜り — 総社市窪木遺跡 —

国道180号総社バイパス建設に伴う発掘調査は、今年で4年目になります。今回は、4月から調査を始めた窪木遺跡で発見された平安時代の土器溜りについて紹介します。

それは微高地部分の調査を開始して間もない頃のこと。「スコップがたたんのじゃけど。」「こっちもじゃ。」と作業員さんの声。見ると、掘り始めた側溝の一部がたくさん土器で埋まったようになっています。そこで、竹ペラと移植ゴテを使い、慎重に土を掘り下げてみると、約4×2mの範囲一面にピッシリと土器が現れたのです。中には同じ大きさの皿が2枚3枚と重なり合ったものや、無傷の杯や皿があります。

250点以上も出土した土器は、そのほとんどが土師器の杯や碗・皿です。ついで目立つのが、器の内面に炭素を吸着させて磨き上げた黒色土器の杯や碗・皿です。また少量ですが、須恵器の杯や緑釉陶器の皿もあります。



調査中の土器溜り

これらは、一定の規格性をもった供膳具で、平安時代の始め頃（約1,150年前）のまとまった資料として貴重なものです。官衙など公の施設で、飲食に用いられたのかも知れません。

土器溜りの周辺では、平安時代の土器のほか瓦や硯が出土しています。また棟方向を揃える数棟の掘立柱建物も見つかり、土器溜りとの関係について検討中です。（高田恭一郎）

## 中世の集落 — 岡山市中島城跡 —

都市計画道路竹田升田線改築に伴い、平成16年1月から旭川東岸の岡山市中島で中島城跡の発掘調査を行っています。

中島城は、備前地方の戦国動乱を舞台とした『備前軍記』の中で、永禄10（1567）年の明禪寺合戦の記述の中に、「中島の城主中島大炊」と見られることから岡山市中島に「城」の存在が伝えられてきました。

これまでの発掘調査の結果、調査区からは、掘立柱建物・土壇・溝・井戸・畑の畝など、今からおよそ800年前の鎌倉時代初め頃から、400年前の江戸時代初め頃にかけての遺構が多く発見されています。中でも、1区で見つかった大形掘立柱建物群とこれをほぼ並行した状態を取り囲む大溝の存在は、周りに堀を巡らした館と考えられ、時期的にも中島城の可能性をもつものといえます。



掘立柱建物の周囲を取り囲む大溝  
（幅約5m、深さ約2m）

出土遺物には、青磁・白磁・染付などの輸入陶磁器、土師器、備前焼・唐津などの国内産陶磁器および日常雑器、鉄製品、銭、土錘（土製のおもり）、瓦、竈、一石五輪塔、骨蔵器などがあり、当時の生活・習俗の一端を垣間見ることができます。（塩見真康）

## 鳥取自動車道建設に伴う発掘調査始まる！ — 大原町中町B遺跡 —

中町B遺跡の所在する英田郡大原町は、東は兵庫県佐用町に接し、北は西粟倉村を経て鳥取県智頭町に至る県境の町です。当センターでは平成16年4月から、中国横断自動車道姫路鳥取線（鳥取自動車道）の建設に伴って発掘調査を行っています。

調査地は、吉野川東岸の幅の狭い谷底平野に位置しています。遺跡東側の山裾には智頭急行



中町B遺跡遠景（南東から）



調査風景

線が走り、車窓からも調査地が望めます。

現在までに中世の土壇・溝・柱穴等が見つかっていて、須恵器や土師器のほか、青磁や白磁といった中国からの輸入磁器も出土しています。遺跡付近は、古代因幡道や近世因幡往來のルートにも推定され、古代から現代に至る交通の要衝でもあります。今後の調査で重要な発見が期待されます。（石田為成）

## 珍 しいかたちの住居 — 勝北町姥ヶ辻遺跡 —

姥ヶ辻遺跡は、勝田郡勝北町市場字姥ヶ辻に所在します。発掘調査は、平成16年5～6月に実施し、古墳時代の竪穴住居や江戸時代の祭祀跡を検出しました。

竪穴住居は2軒見つかりました。1軒は古墳時代初め頃に火災にあった住居です。一辺約5mの隅丸方形を呈しており、床面に炭化した屋根材が放射状に残されていました。また、床面からは、屋根を支える柱を据えるために掘られた、4個の穴が見つかりました。もう1軒は、古墳時代後半のもので、大きさは7×5m程で、平面形は長方形を呈していました。先ほどの住居とは異なり、床面からは柱穴が見つかりません。その代わりに、住居の外側に住居の中心に向かって斜めに掘られている12個の穴が見つかりました。この穴に材木を差し込むと住居の中心で材木が重なることから、屋根材を支



長方形を呈した住居（北西から）  
（↓…斜めに掘られている柱穴）

えるための柱穴であったようです。

このような形態の住居は関東地方でその類例が知られていますが、県下では初出です。なぜこのような住居が建てられたのか、これから調べていきたいと思います。（小嶋善邦）

## 古 墳時代の竪穴住居 — 総社市井手天原遺跡 —

井手天原遺跡は、総社平野のほぼ中央に東西に広がる微高地上に位置しています。北には、古代の山城で著名な鬼ノ城を遠望できます。発掘調査は、国道429号線の改良に伴い4月から9月までの予定で行っています。主に古墳時代の竪穴住居、古代の建物、中世の建物や木棺墓等を良好な状態で検出しています。

その中でも、古墳時代の遺構が特に多く、狭い調査範囲ながらも一辺4～6mほどの方形の竪穴住居を6軒検出しました。前期の住居4軒は掘り方が深く、最も深い住居では検出面から床面まで80cm近くあります。また、後期の住居2軒は、前期の住居と同一検出面ながら床面まで20cmほどと浅く、いずれも掘り方の一辺にカマドを設けています。

住居掘り方の深度は、古墳時代前半期には最も深くなり、古墳時代後期には浅くなるのが、近くの津寺遺跡の多数の調査例でも知られてい



竪穴住居の調査風景

ます。このような変化は、この時期に大陸から渡来した人々との交流による生活様式の変化が住居に新たに作り付けカマドを採用し、これに伴う壁面などが設けられた構造の変化であるとの指摘があります。今回の調査例は、古墳時代の竪穴住居の構造の変遷が良好にたどれる好資料といえるでしょう。（山磨康平）

センターの活動から

**考**古学入門講座 *この足下に歴史がある*

今年度から、新たに「考古学入門講座—この足下に歴史がある」を開講しています。この講座は、最新の発掘調査の成果に基づいて岡山県の歴史を考えてみるものです。また、当センターの仕事をとおして考古学に触れることによって、埋蔵文化財保護への理解を深めていきたいと考えています。



土器の復元作業の様子

記念の第1回目は、7月24日（土）の午後を開講しました。まず、「考古学と発掘調査」と題して、県下各地の発掘調査成果を取り入れ、写真を用いながら、岡山県の歴史を概観した講義を行いました。また、実際の発掘調査で出土した土器の復元作業や、拓本をとるなどの実習も行いました。40人を超える受講者は、小学生から大人まで幅広い年代の人々が集まり、年齢の垣根を越えたものとなりました。

第2回目の講座は1月を予定しています。講座内容の詳細が決まりましたら、受講者を募集しますので、どしどしご応募ください。



**大**地からの便り2004 — 県内の発掘調査報告会 —



第17回を数える発掘調査報告会は、今年も「大地からの便り」と題して、8月28日（土）に岡山県立美術館で開催しました。

この報告会は、県内の市町村教育委員会や岡山大学の協力を得て、発掘調査が行われた遺跡についての映像をまじえた報告のほか、パネル写真や出土品の展示を行っています。当日は、約200名の参加者があり、会場も満席に近い状態でした。参加者の皆さんは、熱心に出土品の観察を行ったり、発表に聞き入ったりしていました。なお、この出土品展示は9月12日まで期間を延長して当センター展示室でも開催しました。

<スライド報告>

第1部 最近の発掘調査から

- ①宮ノ上遺跡ほか (県文化財センター)
- ②二万大塚古墳 (岡山大学)
- ③賞田廃寺 (岡山市教育委員会)

第2部 苫田ダム関連の調査から

(県文化財センター)

<パネル展示・出土品展示のみの遺跡>

- (1)土井遺跡 (県文化財センター)
- (2)中島城跡 (県文化財センター)
- (3)東遺跡 (蒜山教育事務組合教育委員会)
- (4)八紙占墳群 (総社市教育委員会)
- (5)彦崎貝塚 (瀬崎町教育委員会)
- (6)川入・中撫川遺跡 (岡山市教育委員会)
- (7)日上畝山古墳群 (津山市教育委員会)



ふむふむ どんなもんがあるんじゃ？

お知らせ

## 発掘調査報告書の刊行

当文化財センターでは、昨年度末に新たに10冊の報告書を刊行しました。調査時から話題を提供した遺跡も多く、内容も多岐にわたっています。

これらの報告書は、県立図書館や岡山市中央図書館、あるいは県下各市町村教育委員会などに配布しており、学術研究や埋蔵文化財の普及・啓発のために活用されています。

内容などの詳細については当センターへお問い合わせください。

### <最近刊行された報告書> (数字は報告書番号)

- 176 小坂向城山城跡、ヒロダン・小坂向遺跡
- 177 上神代狐穴遺跡、京坊たたら遺跡
- 178 ハヶ奥遺跡、ハヶ奥製鉄遺跡、岡遺跡、小坂古墳群、才地古墳群、才地遺跡
- 179 百間川原尾島遺跡
- 180 山ノ奥遺跡、池東・宍田遺跡
- 181 津島遺跡5
- 182 新邸遺跡、郷ノ溝遺跡、仏生田遺跡、掛無堂遺跡、川入遺跡、中撫川遺跡
- 183 樋ヶ鼻遺跡
- 184 久田原遺跡、久田原古墳群
- 185 田井ちご池遺跡



## HP(ホームページ)は情報の宝庫

当センターではホームページを公開しています。公開を始めてから、7年目にあたる本年度は、当センターが20周年目の節目の年を迎えたということもあり、トップページをリニューアルし、内容も大幅な充実を図っています。現在調査中の発掘調査の位置や内容がわかる「ただいま発掘中!」やセンターが主催する行事予定を記した「イベント情報」なども掲載しています。是非のぞいてみてください。

## センター収蔵品紹介 vol.2 一百間川原尾島遺跡出土の彩文土器

この土器をみるたびに、凍てつくような寒さの中で、井戸の底から取り上げた時の喜びが、つい昨日のここのように思い出されます。百間川遺跡の発掘に携わって2年目のことでした。

この彩文土器が出土した井戸が見つかったのは、百間川原尾島遺跡に営まれた弥生時代集落の中心部です。ふつうの井戸に比べるとひとまわり大きな丸い穴(直径1.5m)で、その上面にはすでに夥しい弥生土器が現れていました。このような遺構を掘る場合、われわれはまず、どのような記録を残していくかを考えます。



記録とは、出土状態の井戸の掘り下げ作業写真撮影や埋まった状態を、断面図などに残す作業です。

発見してから半月間、天候や湧き水と格闘しながら、少しずつ掘り下げ、深さ1mあまりの底近くに到達しました。そこには何点かの完全な土器が横たわっており、鮮やかな彩文土器も姿を現したのです。貴重な赤色顔料で描いたS字状の渦文は、優美な長頸壺の存在感をいっそう際立たせています。お祭りなどの酒宴で使われた、中心的な土器と考えられます。お酒を入れて、人々の杯を満たしたのでしょうか。



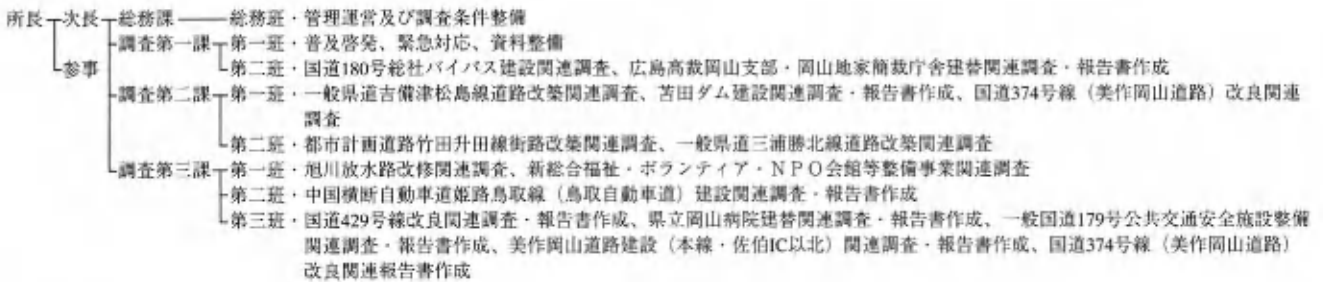
彩文土器  
(高さ:27cm)

およそ1800年ぶりにこの土器が地上に姿を現したのは、今から23年前の2月4日水曜日、小雪混じりの寒風にさらされた午後のことでした。

(岡田 博)

# 岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員（平成16年度）

## <組織>



## <職員>

所長 正岡 睦夫  
 次長 内田 猛  
 参事 松本 和男・伊藤 晃

### 総務課

総務課長事務取扱 内田 猛  
**総務班**  
 総括副参事（総務班長） 笈本 弘忠  
 主任 小坂 文男・小川 紀久  
 主事 堤 弘至・平井 利尚  
       澤 将人・樋口 未来

### 調査第一課

課長 岡田 博  
**第一班**  
 総括副参事（第一班長） 光永 真一  
 主査 大橋 雅也  
 主任 小林 利晴（文化財課本務）  
 主事 河合 忍  
 臨時職員 光延 秀典  
**第二班**  
 総括副参事（第二班長） 江見 正己  
 副参事 下澤 公明  
       尾崎 光徳  
 主査 高田 恭一郎・小松原 基弘  
       渡邊 恵里子・氏平 昭則  
 主事 水田 貴士・妹尾 昌子

### 調査第二課

課長 中野 雅美  
**第一班**  
 総括副参事（第一班長） 岡本 寛久  
 主査 弘田 和司  
 主事 松尾 佳子・上楯 武・稲谷 知子  
**第二班**  
 総括副参事（第二班長） 鳥崎 東  
 副参事 井上 弘  
 主幹 宇垣 匡雅（山陽町へ派遣）  
 主任 塩見 真康（山陽町から派遣）  
       杉山 一雄  
 主事 小嶋 善邦・團 奈歩

### 調査第三課

課長 柳瀬 昭彦  
**第一班**  
 総括副参事（第一班長） 浅倉 秀昭  
 主査 澤山 孝之  
 主任 物部 茂樹  
 主事 和田 剛  
**第二班**  
 総括副参事（第二班長） 福田 正継  
 副参事 内藤 善史  
 主任 岡本 泰典  
 主事 米田 克彦・石田 爲成・山崎 孝盛  
**第三班**  
 総括副参事（第三班長） 山磨 康平  
 副参事 二宮 治夫  
 主査 亀山 行雄・柴田 英樹  
 主任 尾上 元規  
 主事 重根 弘和



編集・発行

## 岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市西花尻1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

●交通案内 ・JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分

・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分

●業務時間 AM 8:30~PM 5:15

●休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM 9:00~PM 5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。  
ただし、臨時に休館することがあります。